

2008年12月13日

地域自然情報研究会

「里山公園とGIS」

日時：12月13日18時から19時30分

1. レーザーデータからわかる地形そして樹林

世古口竜一 朝日航洋（株）

近年普及してきた航空レーザ測量技術は、地形表現においては従来の航空写真測量図化との違いにより、微地形表現に飛躍的な進歩をもたらした。また、レーザの持つ性質から、樹木の樹冠と林床の位置を取得することができ、森林の高さや分布のみならず樹冠形状も把握することが可能である。今回は、あづみの公園で樹林管理への適用を検討した事例などをもとに、航空レーザ測量技術を公園の樹木管理に活かす方法について議論していきたい。

2. 生物データベース・植物管理データベースの作成と利用

使えるGISを目指して ——— 狭山丘陵における試み ———

1) 植物管理の記録とデータベース化の流れと利用

安部邦昭（地域自然情報ネットワーク）

2) 管理データベース、生物データベースの活用の方法と展望

平城尚史（地域自然情報ネットワーク）

丘陵地公園などの大規模な雑木林を有する公園などで生物の多様性を維持しつつ公園管理を行うためには、希少な生物などの過去および現在の生育情報を適切に判断しつつ、管理を行っていくことが重要である。このような管理を効率よく行うために生物の生息状況をGISデータベースとして整備し、データベースを活用した公園管理を行っている事例について紹介する。